

## 互いに愛し合いなさい

2011年12月12日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

今週、わたしたちのコングリゲーション(アハヴァット・イエシュア)でのメッセージは簡単な「聖書クイズ」から始まりました。次のヨハネ書からの御言葉の中で共通する要素は何でしょう？

**ヨハネ13章34節**-あなたがたに新しい戒めを与えましょう。**互いに愛し合いなさい**。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも**互いに愛し合いなさい**。

**ヨハネ15章12節**-わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも**互いに愛し合うこと**、これがわたしの戒めです。

**ヨハネ15章17節**-あなたがたが**互いに愛し合うこと**、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。

**第1ヨハネ3章11節**-**互いに愛し合うべきである**ということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。

**第1ヨハネ3章23節**-神の命令とは、わたしたちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、わたしたちが**互いに愛し合うこと**です。

**第1ヨハネ4章7節**-愛する者たち。わたしたちは、**互いに愛し合いましょう**。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

**第1ヨハネ4章11節**-愛する者たち。神がこれほどまでにわたしたちを愛してくださったのなら、わたしたちもまた**互いに愛し合うべき**です。

**第2ヨハネ5章**-そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それはわたしが新しい命令を書くのではなく、初めからわたしたちが持っていたものなのですが、わたしたちが**互いに愛し合うこと**です。

このクイズに答える事はそんなに難しくありません。互いに愛する。わたしたちが応答すべきは理論ではなく、実践する事なのです。神様がわたしたちに課しているのは、この事だけです。わたしたちが神様のために行なう全ての事のうち、わたしたちの愛の関係だけが**永遠に残る**のです。この世にある他の全ては終わりが来ます。

愛するためには神様の命令に従わなければなりません、わたしたちはお互いを楽しむべきなのです。イエシュア(イエス)は、十字架で苦しみにあわれる事を選択しましたが、それは主が永遠にわたしたちとの関係を楽しむためだったのです。聖霊様はわたしたちと一緒に遊び、楽しんでおられます。(箴言8章31節)

イエシュアはわたしたちが互いに愛し合えるよう、その道を整えて下さったのです。いつも互いに争ってばかりですが、主はその「争い」をその身で荷なって下さり、神を攻撃するものだけではなく、わたしたちがお互いに攻撃し合う事にも耐えて下さいました。あなたの兄弟のことで、あなたを怒らせる事、その感情を十字架にかけ取り去って下さいました。

それほどの代価をみずから払うほどに、主がわたしたちを愛して下さいました。主がそれほどわたしたちを愛して下さいましたのなら、わたしたちはどうして互いを愛さないでおられましょうか。親にとって子供同士が愛し合っているのを見るのは、最高に幸せなことです。同じように、わたしたちが互いに愛していると神様は幸せなのです。また、互いに愛していないのを見るのは、つらいのです。

何が、わたしたちが愛する事から阻むのでしょうか。プライドでしょうか、光栄、情欲、人からうける期待、心の傷、失意、欲求不満、そのようなものでしょうか。愛するためには、これらの自己中心的な感情は手放さなくてはなりません

**ルカ20章20節-彼らは、義人を装った間者を送り、イエスのことばを取り上げて...と計った。**

宗教的な偽善者たちは彼ら自身が義人であるふりをしているとは思っていませんでした。彼らは彼ら自身が正義だと思い、そしてイエシュアが偽物だと思っていました。彼らが正しく、他の人全てが間違っていると。彼らはイエシュアが資格に欠けている人間であるという一言や理由を求めていました。

わたしたちの多くも同様です。自分は正しくて、他人は間違っていると自信を持っています。わたしたちは得てして、他人の間違った一言に気付き、それをもって自分自身が正しく、彼らが間違っているという事まで証明してしまいます。それこそが、宗教的な糾弾、非難する精神なのです。

宗教性とは、わたしたちが礼拝する時に文化的なシンボルを使用するかどうかではなく、わたしたちが正しいと思う方法で事を行なっていない事について他人を非難、批判しているかどうかなのです。わたしたちのコングリゲーションでは、キツパ(ユダヤ人の頭のかぶり物)をかぶるかどうかは自由となっています。誰にもかぶり物をかぶる事を強制されている(第1コリント9章20節)、あるいはまたかぶってはならない(第1コリント11章4節)と感じてほしくありません。神の御霊のあるところには自由があります(第2コリント3章17節)。

第1コリント12章4～6節-さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。

ここで「いろいろ」という言葉が3回使われている事に注意してください。他人を愛するためには、その他人は違っている必要があります。罪に対する感覚においてではなくて、様式においてです。わたしたちは他人が、その賜物において、また召命に、自己を表現する方法において、それぞれ異なっている事を感謝すべきです。わたしたちがそれぞれ異なっている事によって、それらが共に働くとき、わたしたちは輝き美しいものとされるのです。

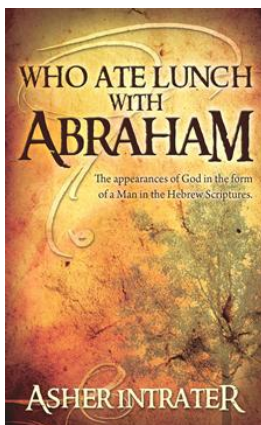
### 緊急、祈りが必要

アシェルとソロモンが来週イスラム教国で伝道します、お祈りください。稀な機会です。難局を打ち破るためにも。彼らの安全のため詳細は伏せておきますが、緊急を要しています。祈って下さい。彼らが戻って来た時にすべてを報告します。

### メシアの二重性

わたしたちはわたしたち自身や、メシアニックの活動の事あるいはイスラエルの事を伝えるのではありません。わたしたちのメッセージはメシアであるイエシュアについてです。彼は神の子であり、ダビデの子(ローマ1章3～4節)でもあるのです。彼は教会のかしらであり(エペソ1章22節)、イスラエルの王(ヨハネ12章13節)です。イエシュアは神と人間をつなぐリンクであり、イスラエルと教会をつなぐリンクでもあります。

わたしたちは、イエシュア(イエス)を、イエシュアだけを熱望します。彼のすべてが必要です。イエシュアの本質とアイデンティティをすべて把握するための大切なポイントは、モーセ5書や預言書に現われた、ヤハヴェ(主)の御使いとしてのイエシュアに注目する事です。この事がアシェルの新刊「誰がアブラハムと食事したのか」のメインテーマです。見逃さないで下さい。



あなたの愛する人へのハヌカのプレゼントや、クリスマスプレゼントにいかがでしょうか。

注文される方は[こちらをクリック](#)して下さい。(本は英文であり、注文も全英文です。)

出版の初期に特別な割引を用意しております。1度の注文でまとめて購入される場合、10冊で10%引き、20冊で20%引き、30冊で30%引きとしております。このまとめてご注文をされる場合、[こちら](#)にメールを送って下さい。(英文)